

熊野町まち・ひと・しごと創生 総合戦略

～筆で彩る7色のブランド戦略～

熊 野 町

平成29年6月改訂

目 次

I 基本的な考え方

1 策定の背景	1
2 総合戦略（ブランド戦略）策定にあたっての新たな視点	2
3 計画期間	2
4 本戦略の位置づけ	2
5 数値目標・重要業績評価指標（K P I）の設定	2

II 熊野町まち・ひと・しごと創生総合戦略 施策概要

～筆で彩る7色のブランド戦略～

戦略目標 1 「筆都ひと」	筆の都の未来を考え、支える人材・心を育む	4
戦略目標 2 「筆都健活」	筆の都の特質を活かした健康づくりをする	6
戦略目標 3 「筆都連携」	筆の都を市町連携により開かれた都市空間にする	8
戦略目標 4 「筆都安心」	筆の都に「住んでよし」の魅力的なまちにする	9
戦略目標 5 「筆都文化」	筆と人が織りなす文化・歴史を発信するまちにする	12
戦略目標 6 「筆都探訪」	筆の都のお招きの心を高めるまちにする	14
戦略目標 7 「筆都しごと」	筆の都が活性化する産業が育つまちにする	16

I 基本的な考え方

1 策定の背景

平成20（2008）年に始まった日本の人口減少は、若年の人口減少と老年人口の増加を伴いながら、今後、加速的に進行することが予測されています。

こうした状況から、国では、急速な少子高齢化の進展に対応し、地方の人口減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口集中を是正し、将来にわたって活力ある日本社会を維持することを目的とする「まち・ひと・しごと創生法」を制定しました。平成26（2014）年12月には、国と地方が総力を挙げて地方創生・人口減少に取り組む上での指針となる「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」、地方創生のための施策の基本的方向や具体的な施策をまとめた「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を閣議決定し、また、地方においても、人口の現状を分析するとともに、今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望を提示する「人口ビジョン」及びその「人口ビジョン」を基に、地域の特色、地域資源を生かした住民に身近な施策の実施を目指す計画「地方版総合戦略」の策定に努めることとされています。

《国の総合戦略の概要》

基本的な考え方

- ①人口減少と地域経済縮小の克服
 - ・「東京一極集中」を是正する。
 - ・若い世代の就労・結婚・子育ての希望を実現する。
 - ・地域の特性に即して地域課題を解決する。
- ②まち・ひと・しごとの創生と好循環の確立
 - 「しごと」が「ひと」を呼び、「ひと」が「しごと」を呼び込む好循環を確立するとともに、その好循環を支える「まち」に活力を呼び戻す。

政策の原則

- ①自立性
 - ・構造的な問題に対処し、地方公共団体、民間事業者、個人等の自立につながる。
- ②将来性
 - ・地方が自主的かつ主体的に、夢を持って前向きに取り組むことを支援する。
- ③地域性
 - ・各地域の実態にあった施策を支援。国は支援の受け手側の視点に立って支援。
- ④直接性
 - ・最大限の効果をあげるため、直接的に支援する施策を集中的に実施する。
- ⑤結果重視
 - ・PDCAメカニズムの下、具体的な数値目標を設定し、効果検証と改善を実施する。

基本目標

- ①地方における安定した雇用を創出する
- ②地方への新しいひとの流れをつくる
- ③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
- ④時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する。

2 総合戦略（ブランド戦略）策定にあたっての新たな視点

本町においては、平成23年3月に「第5次熊野町総合計画」を策定し、将来像「ひと まち 育む 筆の都 熊野」を具現化するために、「こころもからだも健やかな『ひと』を育む熊野」及び「暮らしやすく、元気な『まち』を育む熊野」の2つの基本目標を掲げ、「地域力の強化」、「快適暮らしの創造」及び「筆の都の活性化」の3つを基本的視点とし、目標人口を25,000人として施策を推進しています。

しかしながら、少子高齢化の影響もあり、緩やかではありますが人口減少が進行しています。

全体人口が減少するなか、「選択定住」という言わば他市町村との競争環境において、定住・交流人口増を図るためには、町民にとって“住みやすく 住み続けたいまち”であるととともに、“住みたいまち”として選ばれるまちであることが必要です。そのために、これまでの政策展開の視点において意識してきたまちのイメージブランドづくりを更に高め、その魅力を発信することが求められています。

全国一の筆の生産地である本町は『筆の都』として、全国的な知名度を有しており、近年では毛筆づくりの高い技術から生産される化粧筆が注目を集め、そのブランド力はさらに高まっています。

「熊野筆」という特産品のブランドイメージが確立している一方で、「定住・交流」という観点からのまちのイメージは十分に内外に定着しているとは言えません。

そこで、総合戦略の策定にあたっては、これまでのまちづくりの取組みを踏まえ、他の市町にないもの、他の市町と比べて抜きん出ているもの、強烈な個性と言える本町の行政施策や民間活力、地域資源などの様々な町の特長を、再認識・再評価するなどしてブラッシュアップすることで、独自性を高め、“住み続けたいまち”、“住みたいまち”としての本町のブランドを確立し、定住・交流人口増を図ることを新たな視点として、「熊野町まち・ひと・しごと創生総合戦略～筆で彩る7色のブランド戦略～」を策定することとします。

3 計画期間

平成27（2015）年度から平成31（2019）年度までの5年間とします。

4 本戦略の位置づけ

本戦略は、「熊野町人口ビジョン」において示した将来の展望、施策の基本視点を踏まえ、第5次熊野町総合計画に沿って進める諸施策のうち、定住・交流人口の増加を強力的に推進するために優先すべき施策を、本町の特性、特長（ブランド）を活かしながら、重点的に展開するために策定するものです。

5 数値目標・重要業績評価指標（KPI）の設定

本戦略においては、戦略目標ごとに実現すべき成果に係る数値目標を設定し、そして、その実現に向けて実施する施策ごとに、重要業績評価指標（KPI）を設定します。この数値目標や指標の達成度について、毎年度、評価点検を行い、本戦略の成果を客観的に検証することとします。

II 熊野町まち・ひと・しごと創生総合戦略 施策概要

～筆で彩る7色のブランド戦略～

国の総合戦略並びに熊野町人口ビジョンを踏まえ、“筆で彩る7色のブランド戦略”を掲げ、次の分野ごとの目標の実現に向け必要な施策を推進します。

戦略目標		分野	国の総合戦略 (基本目標)
戦略目標 1	「筆都ひと」 筆の都の未来を考え、支える人材・心を育む	子育て・教育	若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
戦略目標 2	「筆都健活」 筆の都の特質を活かした健康づくりをする	健康・生きがい	時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する 地方への新しい人の流れをつくる
戦略目標 3	「筆都連携」 筆の都を市町連携により開かれた都市空間にする	広域連携	
戦略目標 4	「筆都安心」 筆の都に「住んでよし」の魅力的なまちにする	安心・安全・環境	
戦略目標 5	「筆都文化」 筆と人が織りなす文化・歴史を発信するまちにする	文化・歴史	
戦略目標 6	「筆都探訪」 筆の都のお招きの心を高めるまちにする	観光・交流	
戦略目標 7	「筆都しごと」 筆の都が活性化する産業が育つまちにする	産業	地方における安定した雇用を創出する

戦略目標 1 「筆都ひと」～筆の都の未来を考え、支える人材・心を育む～

日本一の筆の生産量を誇る本町では、筆にまつわる様々な文化継承の営みが個性的、独創的な地域社会を形成してきました。その原動力は「人材」です。

我が国の伝統ある文化を肌を感じながら人が成長できる社会は、グローバルな感覚を備えた人材を育成する教育環境としても優れています。

こうした本町の環境を活かし、豊かな「ひと」を育む“選ばれる子育て環境”の実現を目指します。

【数値目標】

指 標	目標値 (H31)
子育て支援への満足度	70%

重点施策 1	「子育て支援のまち くまの」 地域ぐるみの子育て支援		
(施策の方向性)			
○一時保育や病後児保育などの保育サービスや、放課後児童クラブの充実、ファミリーサポートセンター事業など、地域ぐるみの子育てサポート体制の充実を図り、“子育て世代が安心して働くことのできるまち”にします。			
○子どもが生き活きと遊び、活動できる広場等の整備や、健康増進、情操を高めるため児童館の施設整備について検討し、“子育て世代が住みよいまち”にします。			
○妊娠、出産、乳幼児期、育児期を通じた相談や健診等を実施、母子保健の充実と養育の支援を推進するとともに、児童医療費助成や就学援助のほか、子育て世代の経済負担の軽減につながる助成制度を検討し、“安心して子どもを産み 育てられるまち”にします。			
重要業績評価指標 (KPI)			
指 標	単 位	基準値 (H26)	目標値 (H31)
待機児童数	人	0	0
ファミリーサポートセンター登録者数	人	139	200
乳幼児健診受診率	%	(1歳6ヶ月) 87.8 (3歳) 96.6	(1歳6ヶ月) 100 (3歳) 100 ※未受診者の状況把握を含む
(具体的施策)			
○子育てサポート体制の充実			
<ul style="list-style-type: none"> ・一時保育や病後児保育など保育サービスの充実 ・放課後児童クラブ事業 ・子育て支援センター事業 ・ファミリーサポートセンター事業 			
○子どもの居場所づくり			
<ul style="list-style-type: none"> ・児童館整備の検討 ・広場等の整備 			

- 母子保健の充実・養育支援
 - ・妊婦健康診査、乳幼児健康診査
 - ・母親学級、育児相談、乳児家庭訪問
- 子育て世代の経済的支援
 - ・乳幼児医療費助成
 - ・児童医療費助成
 - ・不妊治療費助成

重点施策 2	「教育のまち くまの」 “筆の都” の未来を支える人材の育成		
(施策の方向性)			
○低学年書道や筆づくり体験など地域の特色を生かした学習を推進し、“筆の都” 熊野への愛着と誇りを育むとともに、教育環境の充実により、基礎学力、体力のさらなる向上を図り、未来を支える子どもたちの可能性を高めます。			
○幼稚園、保育所、小・中学校、図書館等が連携し、教養、知識、情操などを養う家庭での読書活動を推進するとともに、“読書のまち くまの” を町外へ広く紹介し、読書を通じた交流を図ります。			
重要業績評価指標 (KPI)			
指 標	単 位	基準値 (H26)	目標値 (H31)
「授業がわかる」児童生徒の割合 (5年間平均)	%	(小) 82.7 (中) 76.6	(小) 90.0 (中) 85.0
「くまどく」達成率	%	64.8	70.0
(具体的施策)			
○教育環境の充実			
<ul style="list-style-type: none"> ・低学年書道、筆づくり体験など特色ある地域学習 ・学力向上対策事業 ・学校支援事業 ・国際交流事業 ・中学校への学校給食導入 ・ICT等を活用した教育の推進 			
○読書活動の推進			
<ul style="list-style-type: none"> ・家庭読書「くまどく」事業 ・ブックスタート事業 			

戦略目標 2 「筆都健活」 ～筆の都の特質を活かした健康づくりをする～

健康づくりや生涯学習の拠点となる施設が各地区にある本町では、地域での健康づくり活動や文化活動が活発に行われています。ひとの活力の源は「健康、生きがい」です。

「筆」で彩る芸術や、幾年の時を経て培われてきた地域内の多様な交流など、伝統の裏付けにより心も体も育める社会は、充実した人生を営む場として優れています。

本町の地域力を活かし、生き生きと活躍する「ひと」を育てる“活力創出の環境”の実現を目指します。

【数値目標】

指 標	目標値 (H31)
健康づくり支援への満足度	60%

重点施策 1	「世代を越えて地域でつながる健康なまち くまの」 健康づくりの推進		
(施策の方向性)			
○特定健診やがん検診などの充実、食育の推進により、住民の主体的な健康づくりを支援するとともに、地域で支えあう住民参加型の健康づくりとして、シルバーリハビリ体操を普及させるため、体操指導士の養成に取り組むなど、健康づくり・介護予防対策の充実を図り“健康なまち”にします。			
重要業績評価指標 (KPI)			
指 標	単 位	基準値 (H26)	目標値 (H31)
各種がん検診受診率	%	28.3	50.0
特定健康診査受診率	%	37.5	49.0
体操指導士認定者数	人	—	80
健康出前講座実施回数	回	23	30
(具体的施策)			
○健康づくりに関する意識啓発			
<ul style="list-style-type: none"> ・健康まつりなどの健康イベント ・広報やホームページによる情報発信 			
○主体的な健康づくりの支援			
<ul style="list-style-type: none"> ・ノルディックウォーキングの推奨 ・運動教室や栄養教室などの健康教室 ・シルバーリハビリ体操指導士養成事業 			
○疾病予防体制の充実			
<ul style="list-style-type: none"> ・各種健康診査・検診 ・健康相談 ・食育の推進 			

重点施策 2	「みんなが生き生き暮らせるまち くまの」 高齢者・障害者の社会参加支援		
(施策の方向性)			
○都市に近く自然と調和した本町において、就労や地域活動への参加支援など、シニア世代が生き生き活躍できる環境づくりを推進し、退職後、帰郷又は新たな居住地として選択される魅力あるまちにします。			
○ノーマライゼーションの理念のもと、関係機関と連携した就労支援や相談支援体制の充実を図り、障害者の就労及び社会参加を促進します。			
重要業績評価指標 (KPI)			
指 標	単位	基準値 (H26)	目標値 (H31)
高齢者ふれあいサロン延べ利用者数	人	13,464	14,000
就労継続支援年間利用者数	人	33	41
(具体的施策)			
○高齢者が活躍できる環境づくりの推進			
<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の就業支援 ・まちづくり協働推進事業 			
○障害者の社会参加支援			
<ul style="list-style-type: none"> ・障害者就労支援 			

重点施策 3	「文化・スポーツ先進のまち くまの」 生涯学習の推進		
(施策の方向性)			
○“筆の都”熊野の特色を生かした講座の開催や、熊野健康スポーツ振興会と連携したスポーツ・レクリエーション環境の充実など、特色ある生涯学習を推進するとともに、伝統的行事である町民文化祭や駅伝大会、町民体育大会など、文化・スポーツを通じた多様な交流を図り、“文化・スポーツ先進のまち”にします。			
重要業績評価指標 (KPI)			
指 標	単位	基準値 (H26)	目標値 (H31)
体育館等スポーツ施設年間利用者数	人	164,177	170,000
筆の里スポーツクラブ会員数	人	989	1,200
町民文化祭参加グループ数	団体	64	69
(具体的施策)			
○公民館講座、文化活動の充実			
<ul style="list-style-type: none"> ・筆を活用した公民館講座 ・公民館活動グループの支援 			
○スポーツ・レクリエーション環境づくりの推進			
<ul style="list-style-type: none"> ・各種スポーツ教室・講座 			
○文化・スポーツイベントの開催			
<ul style="list-style-type: none"> ・町民文化祭・公民館まつり ・熊野駅伝大会・町民体育大会 			

戦略目標3 「筆都連携」～筆の都を市町連携により開かれた都市空間にする～

平成の大合併が終わり、少子高齢、人口減少社会の中、住民ニーズもより複雑多様化してきました。ひとが求めるのは「豊かな暮らし」です。

自分のまちにとどまらず、私たちに身近な産業、歴史、文化、景観などをお互いが有効に分かち合える社会は、豊かな暮らしを確保できる空間として優れています。

本町のみならず近隣市町の多様な地域資源等も活かした“開かれた都市空間環境の形成”の実現を目指します。

【数値目標】

指 標	目標値 (H31)
熊野町を「住みやすい」と感じる人の割合	70%

重点施策1	「近隣市町とつながるまち くまの」 広域連携の推進		
(施策の方向性)			
○「連携中枢都市制度」を活用し、中枢都市を始めとする近隣市町との連携を強化し、生活関連機能のサービス向上を図るなど、本町での暮らしの豊かさを高めます。			
○観光事業を近隣市町と連携して共同実施し、山・海・島の観光資源を有効活用し、共通する課題の解決に向けた更なる連携強化を図るとともに観光交流圏の広域化、交流人口の増加を図ります。			
○近隣市町と連携した就労支援、雇用の確保のための取組みを推進します。			
重要業績評価指標 (KPI)			
指 標	単 位	基準値 (H26)	目標値 (H31)
広域連携事業数	事業	—	30
安芸区役所の就労支援延べ利用者数	人	—	10
(具体的施策)			
○「連携中枢都市圏制度」等を活用した広域連携			
・生活関連サービスの広域連携			
・観光事業の共同実施			
・近隣市町と連携した就労支援・雇用の確保			

戦略目標 4 「筆都安心」～筆の都に「住んでよし」の魅力的なまちにする～

広島市、呉市、東広島市の3市の中心に位置する本町は、その立地から「筆と自然が調和したまち」として独特な成長を遂げてきました。まちの住みよさは「安心・安全、環境」です。

交通網の発達によりさらに都市に近く便利で、山々の稜線に囲まれた環境は、子どもを育み生涯を豊かに過ごす住環境として優れています。

この恵まれた環境を有効的に利用し、“安全・安心、便利な住まいの環境”の実現を目指します。

【数値目標】

指 標	目標値 (H31)
人口の社会増減	±0

重点施策 1	「魅力ある拠点創造のまち くまの」 拠点を創造し機能をつなぐ		
重点施策 2	「住みたい・住み続けたいまち くまの」 若年層や町外からの定住支援		
(施策の方向性)			
○くまの産業団地から深原準工業地域までの（仮称）県道瀬野呉線バイパスに沿った地域における新市街地の形成を検討します。			
○隣接する3市へのアクセスを強化し、本町の住民に対するさらなる住みよさの向上を図り、住民の定住を推進するとともに、町営住宅の整備、空き家の有効活用などによる受け皿の確保等により、特に子育て世代のU I Jターンを促進します。			
重要業績評価指標 (KPI)			
指 標	単位	基準値 (H26)	目標値 (H31)
子育て世代定住促進助成制度を活用した町外からの移住世帯数（5年間）	世帯	—	100
(具体的施策)			
○利便性の高い地域拠点づくり			
・瀬野呉バイパスに沿った新市街地形成の検討			
○U I Jターンの促進			
・子育て世代定住促進助成事業			
・子育て支援情報の発信			
○住宅整備			
・町営住宅の整備			
・空き家の活用			
○交通アクセスの強化			
○定住促進拠点施設の整備			
・子育て支援事業			
・移住体験や情報提供などの移住・定住促進事業			
・就業支援			

重点施策 3	「便利におでかけのまち くまの」 交通機能の強化		
(施策の方向性)			
○バス路線の維持とさらなる利便性の向上を図るとともに、高齢化が進む高所団地等の町民の買い物や通院時の移動手段を確保する生活福祉交通「おでかけ号」の運行により、交通機能の強化を図ります。			
重要業績評価指標 (KPI)			
指 標	単位	基準値 (H26)	目標値 (H31)
おでかけ号年間利用者数	人	7,144	7,400
(具体的施策)			
○公共交通の利便性向上			
<ul style="list-style-type: none"> ・バス路線補助金事業 			
○生活移動手段の確保			
<ul style="list-style-type: none"> ・生活福祉交通「おでかけ号」の運行 			

重点施策 4	「みどり豊かなまち くまの」 自然環境の保全と調和		
(施策の方向性)			
○住民と協働し、本町にほどよく残る里山や河川環境の保全に取り組み、“自然と共生する美しいまち”にします。			
重要業績評価指標 (KPI)			
指 標	単位	基準値 (H26)	目標値 (H31)
まちづくり活動団体	団体	12	17
(具体的施策)			
○美しい環境・景観づくり			
<ul style="list-style-type: none"> ・特定空き家対策事業 ・まちづくり協働事業 			

重点施策 5	「安心・安全なまち くまの」 災害に強いまちづくりの推進		
(施策の方向性)			
○自主防災組織の育成を支援し、「自助」・「共助」・「公助」で防災力を高め、災害に素早く対応できる体制を構築し、“災害に強いまち”にします。			
○災害時の業務継続に向けた対応力を強化するため、中国地方では初めてクラウドによるシステム共同利用に参加し、行政事務の安定を図ります。			
重要業績評価指標 (KPI)			
指 標	単 位	基準値 (H26)	目標値 (H31)
自主防災組織活動団体数	団体	5	8
(具体的施策)			
○防災体制の強化			
<ul style="list-style-type: none"> ・一時退避集会所の整備 ・防災行政無線の整備 ・自主防災組織育成 ・行政システムのクラウド化 			
○自然災害対策の充実			
<ul style="list-style-type: none"> ・砂防堰堤・治山堰堤の整備 ・急傾斜地崩壊対策事業 			

戦略目標 5 「筆都文化」～筆と人が織りなす文化・歴史を発信するまちにする～

伝統的工芸品「熊野筆」の伝統と文化が息づいた本町では、「筆の都」として全国的な知名度を有しており、近年では、毛筆づくりの高い技術から生み出された“化粧筆”が世界的に有名になり、さらに注目を集めています。わがまちの文化の源は「筆」と「ひと」です。

多彩な芸術・文化を表現する「筆」を生み、「伝統と文化」を育む全ての「ひと」は日本の誇りです。この「筆」にかかわる伝統と歴史を有するわが町は、「筆」と「ひと」が織りなす文化の発信の場としても優れています。

筆文化の魅力あふれる本町の特長を活かし、“文化発信のまち”の実現を目指します。

【数値目標】

指 標	目標値 (H31)
ふるさと納税寄附件数	250件

重点施策1	「筆文化発信のまち くまの」 筆に関するイベントの開催		
(施策の方向性)			
○「筆まつり」や「全国書画展覧会」、「ありがとうの絵てがみ大賞」など、本町ならではのイベントに加え、化粧筆などを活用した新たなイベントを企画・立案するなど、筆文化の魅力を発信するイベントの充実や創出を推進し、交流人口の増加を図ります。			
○筆の里工房を中心として、筆から表現される多様な文化を発信するとともに、県内外セレクトショップ等において集客力のあるイベントを開催します。			
重要業績評価指標 (KPI)			
指 標	単 位	基準値 (H26)	目標値 (H31)
絵てがみ大賞応募数	件	8,279	8,700
(具体的施策)			
○既存イベントの充実と新規イベントの創出			
<ul style="list-style-type: none"> ・筆まつり、筆の日の実施 ・全国書画展、ありがとうの絵てがみ大賞の開催 ・セレクトショップ等での新たなイベントの開催 			

重点施策 2	「伝統と文化が息づくまち くまの」 まちの魅力を広く発信		
(施策の方向性)			
○本町の魅力を紹介するまちのPRビデオやマスコミ、セレクトショップなど、多様な媒体を活用して熊野町と熊野筆の魅力を広く発信します。			
○「ふるさと納税」の寄附者に対する記念品として町の特産品を贈呈するとともに、ふるさと納税の本旨である本町の応援者を募り、その応援者を中心に広く町の魅力を発信します。			
○3つの市の中央という好立地にあり、自然と住環境が程よく調和する熊野町を、筆を媒体とする創作活動の拠点として位置づけ、アトリエ、店舗としての空き家の有効活用に取り組みます。			
重要業績評価指標 (KPI)			
指 標	単 位	基準値 (H26)	目標値 (H31)
町外情報発信拠点数	箇所	2	4
町観光PRビデオへのアクセス数	件	—	7,300
(具体的施策)			
○熊野町・熊野筆の魅力発信			
<ul style="list-style-type: none"> ・熊野町PRビデオの活用 ・「筆の都倶楽部」の発足 ・ふるさと納税 ・筆文化の創作拠点としての空き家の活用 			

戦略目標 6 「筆都探訪」～筆の都のお招きの心を高めるまちにする～

伝統的な行事である「筆まつり」や「全国書画展覧会」などが行われる熊野町には、町内外から多くの「ひと」が訪れます。「まち」に「ひと」を惹きつけるのは「まちの魅力」です。

多彩なまちの魅力を発信できる「筆」を有する本町は、観光交流の場としても優れています。

こうした本町の「まちの魅力」をさらに高め、“お招きの心を高めた交流の場の創出”を目指します。

【数値目標】

指 標	目標値 (H31)
年間入込観光客数	250,000人

重点施策 1	「出会いと交流のまち くまの」 観光資源を魅力アップ		
(施策の方向性)			
<p>○筆づくり体験や、筆事業所見学など、熊野筆を生かした特色ある観光メニューの提供、周辺市町と連携した多様な観光プランの設定など「筆の都」の魅力を高める観光施策を推進するとともに、観光交流拠点の中心となる「筆の里工房」の周辺整備や、民間活力を活用した新たな観光資源の整備を積極的に支援し、集客力の強化と交流促進を図ります。</p> <p>○伝統工芸士の指導による筆づくり体験、職人の技に触れる筆事業所見学など、児童生徒への体験学習メニューの提供、書道や美術などの芸術を学ぶ学生と筆職人との交流や、書家やメイクアップアーティストの招致など、“「ひと」と「筆の都」との出会いと交流のまち”にします。</p>			
重要業績評価指標 (KPI)			
指 標	単 位	基準値 (H26)	目標値 (H31)
筆の里工房年間来館者数	人	72,276	150,000
(具体的施策)			
<p>○「筆の里工房」を中心とした観光施設の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「筆の里工房」周辺の施設整備 ・「筆の里工房」までの道路整備 ・民間活力を活用した新たな観光資源の整備への積極的支援 <p>○「筆」を通じた交流の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆づくりなどの体験メニューの提供 ・「ひと」と「筆」との交流事業 			

重点施策2	「おもてなしのまち くまの」 地域をあげた受け入れ体制の強化		
(施策の方向性)			
○地域住民の参画による観光ボランティア等の育成、観光案内所「筆の駅」との連携など、民間活力を活用し、観光推進体制を強化するとともに、外国人観光客の受け入れ体制を整備し、海外からの観光客の増加を図ります。			
重要業績評価指標 (KPI)			
指 標	単位	基準値 (H26)	目標値 (H31)
「筆の駅」年間利用者数	人	5,344	7,500
(具体的施策)			
○観光推進体制の強化			
<ul style="list-style-type: none"> ・観光ボランティアの育成 ・「筆の駅」の充実 			
○外国人観光客受け入れ体制の強化			
<ul style="list-style-type: none"> ・日本文化体験メニューの提供 ・外国語音声ガイド・パンフレット ・Wi-Fi環境の整備 			

戦略目標 7 「筆都しごと」～筆の都が活性化する産業が育つまちにする～

職人の高い技術によって品質が保たれる「熊野筆」は、伝統ある我がまちの地域産業です。この「筆」とともに、本町は発展してきました。産業創出の源は「ひと」です。

「筆づくり」というたぐいまれな地域産業に携わる多くの「ひと」がいる本町は、「筆」のみならず、新たな産業、雇用を創出するバイタリティを高める環境としても優れています。

伝統ある地域産業を持つ本町の特長を活かし、“筆を核として新たな産業が育つ環境”の実現を目指します。

【数値目標】

指 標	目標値 (H31)
製造品出荷額 (従業者4人以上の事業所)	272億円

重点施策1	「日本一の筆のまち くまの」 熊野筆ブランドの発信		
(施策の方向性)			
○インターネットやマスコミ、県内外のセレクトショップなど多様な媒体を活用するほか、2020年開催の東京オリンピック等を通じ、熊野筆ブランドを世界に発信し、販路拡大を図るとともに、熊野の魅力を発信します。			
○「熊野筆マイスタースクール」の開催を支援し、“筆の都”を担う後継者の育成・確保を図り、伝統、技術を守ります。			
重要業績評価指標 (KPI)			
指 標	単 位	基準値 (H26)	目標値 (H31)
人口千人あたり商品販売額	億円	5.2	5.5
マイスタースクール年間参加者数	人	4	10
海外見本市への「熊野筆」の出店数	件	—	3
(具体的施策)			
○「熊野筆」のブランド化の推進			
<ul style="list-style-type: none"> ・海外事業展開支援 ・東京オリンピック等を活用した販路拡大支援 			
○後継者育成支援			
<ul style="list-style-type: none"> ・「熊野筆マイスタースクール」支援 			

重点施策 2	「活力のあるまち くまの」 雇用創出の推進		
(施策の方向性)			
○本町で初めて企業立地用に造成した「くまの産業団地」を中心に、深原地区準工業地域へのアクセス強化による民間企業の受入れ等により、雇用の創出、産業の活性化を図ります。			
○創業支援事業計画に基づき、関係機関と連携した創業支援を行います。			
重要業績評価指標 (KPI)			
指 標	単位	基準値 (H26)	目標値 (H31)
創業支援相談年間件数	件	—	25
(具体的施策)			
○雇用の創出			
<ul style="list-style-type: none"> ・くまの産業団地の整備 			
○産業の活性化			
<ul style="list-style-type: none"> ・準工業地域へのアクセス強化 ・都市計画道路「平谷萩原線」沿線の用途指定 			
○創業の支援			
<ul style="list-style-type: none"> ・創業支援事業計画に基づく創業支援 			

重点施策 3	「農業を育むまち くまの」 まちの特性を生かした農業の振興		
(施策の方向性)			
○生きがい型農業、体験ふれあい型農業など、耕作放棄地を活用した都市に近い熊野町ならではの農業の取組みを推進します。			
○農作物販売所の支援、イベント等での農産物販売などの販売促進の他、学校給食での地場産物利用の拡充など、地産地消の取組みを推進します。			
重要業績評価指標 (KPI)			
指 標	単位	基準値 (H26)	目標値 (H31)
農業法人数	法人	1	3
遊休農地、休耕田面積	ha	88	85
(具体的施策)			
○耕作放棄地の解消			
<ul style="list-style-type: none"> ・「農地中間管理制度」の活用 ・多様な農業の展開の促進 			
○地産地消の推進			
<ul style="list-style-type: none"> ・「農業祭」、「筆の都マルシェ」等、販売機会の創出 ・学校給食への地場産物の活用 			